

# □連載小説／心象風景Ⅱ

## 窓

秋吉 好

え・小西 保文

針金で木に宙吊りにした学生の死体を、一人の男がパイプ椅子を振りかざし、今まさにその脳天目掛けて振りつけようとしている。学生の死体は人形のように木にぶらさがり、頭はすでに血まみれで、喉元深く針金が食い込み、首が異様に長くのびていて、口が火男のように尖っている。死体に挑みかかっている男は今にも飛び上がんばかりに身体を伸ばし切って満身に力をこめているそして、この二人を取り囲んで、群衆が見ている。群衆の顔にはいずれも笑いが満ちている。どの顔も明るく屈託がなくて、吊された学生の死体とそれを撲る男の情景が、あたかも人形を相手に演じられている喜劇でもあるかのように、白い健康な歯を出して愉快そうに笑っている。

死体の学生も、撲りかかる男も、それを見ている群衆も、健次と同じ二十才前後の若者だった。

健次は重苦しい気分になってグラフ雑誌を枕元に投げ出し、煙草をふかして大きく息を吐き出した。

——この男に死体を撲らせているものは何だろう？　なぜ彼らはあんなに明るく笑っているのだろうか？　な

健次がこの写真を見るたびに抱く疑問だった。そして、このグラフ雑誌をいつまでも手元に置いておく理由だった。

それは一九七六年十月六日タイの首都バンコクの国立タマサート大学で起こった軍部右翼の焼打ち事件を報道

した何枚かの写真のうちの一枚だった。その日、三十九人の学生が死んだ。焚木でも燃やすように学生の死体を積み重ねて焼き払う写真、無抵抗な学生に棍棒で撲りかかる右翼、裸で腹這いに寝かされた何百という学生、国王の写真をかざしてクーデターを支持する群衆など、詳細に事件を伝える写真の中で、健次はこの写真が一番心に残った。

——ねえ、空が夕焼けのように赤いわねえ。  
窓辺にもたれていた珠子が言った。

道を隔てた高架の上を電車が通る。そのたびに震動が伝わってきて、小刻みに部屋をふるわせる。電車の長く連なった窓に、吊革にぶら下がった無表情な人の姿が、次々と数知れず通過する。

——ねえ、血を流したみたいで気味が悪い。今に血の色をした雨が降ってくるんじゃないかしら。

珠子の声は粘つくく健次の耳に纏わりついて、健次を写真の世界からアパートの部屋につれもどした。

——お前、裸のままだろう。

健次は不機嫌に珠子をなじった。

——いいじゃないの。暑いんだもん。

珠子はわざとらしく窓辺をはなれ、健次の枕元の煙草をとった。尖った小さな乳房がゆれた。

——電車から丸見えだぜ。

——私はいつだって人に見られても平気よ。見たい奴に

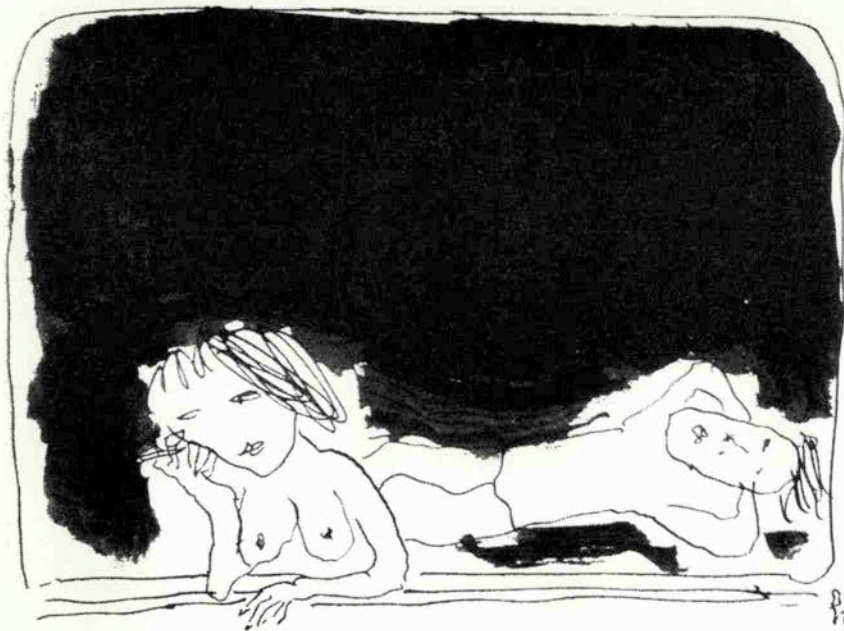
は見せてやるわ。

高架の電車が通るたびに、白い光が窓に差す。そして通過すると、赤く染まった高架下の市場の屋根が見える。

——モデルなんかしているから露出癖が身につくものなんだ。

売れない写真家に、露出狂の女、なんて、ずいぶん似合いじゃないの。あっ。あのおじさん、こっちを見たわよ。手を振ってやろうか。

珠子は立ち上がって今にも手を振りそうにしてはしや



いだ。

馬鹿、やめとけよ。

健次は真顔になって言った。

——寝ていたって、結構電車の中から見えるわよ。私、いつだったか、あんたが他の女と寝てたのを見たことがあるわよ。

——嘘をつくな。

——本当よ。隠しても駄目だから。大阪で仕事をした婦りの電車から見たわ。痩せた女の背中がゆれていたのま

でわかったわ。

——ぼくには覚えがないな。高架沿いに無数に同じようなアパートがあることだし、何人も露出狂がいたって不思議はないからな。

——どうでもいいわ。そんなこと。

健次は仰向きになって天井を見ながら煙草をふかす。白い煙が蛍光灯の仄暗く照らし出す光の中を渦巻きながらのぼって行く。

珠子に遮られた健次の思考は仲々焦点が定まらず、風化し、同じ所を循環する。

——どうして彼らはあんなに笑うのか？

と咳く。そして、またグラフ雑誌をとって見た。

《この前頁の写真と比べたらよくわかる。銃撃戦で死んだ学生の死体にガソリンをかけて焼き払っている写真では、群衆はみんな人を焼く匂いに鼻をおさえ顔をそむけて真剣な憂鬱そうな表情をしている。みんなはこの残酷な事態の意味をよく知っているのだ。ところが、この写真では、彼らは明らかに学生の死体をなぶりものにすることを面白がって見ている。同じ民族で、同じ国民で、同じ世代でありながら、体制を認めるか認めないかで、死んだ相手を木に吊し、死んでも決して攻撃の手をゆるめないでいる。人間が人間を憎悪

するということがこれほどまでに深まるんだということが理解できても、やはり驚きだ。さらに、群衆がそれを面白いことのように白痴的に笑っていることは異常だし、その異常に気付いていないことが不気味だ。

——人の写真に感心ばかりしていても仕方がないじゃないの。

珠子が健次の見ているグラフ雑誌を取り上げて自分でも見た。

——ああ、気味が悪い。

と珠子はすぐに雑誌を健次に押し返した。

——ビュリッツァー賞を受けた写真だ。ぼくなんか、こんな写真を見ていると、撮る側から見るとすぐ追いやられてしまう。こんな写真に構成とか陰影だとか技術を学ぶというよりも、長い歴史の一コマをいかに定着するかという点にだけ意味があるし、そしてそれが影像の思想だと思う。

——でも、あなたの撮るのとはまるっきり違うわね。あなたを私を相手に変な写真を撮る芸術派でしょう？

——ぼくだって、こんな事件が起こったら、これくらいきつと撮ってみせるさ。

——芸術派が社会派になるってわけ？

珠子はつまらなさそうに枕元の煙草をとって火をつける。

六畳一間の部屋の中はグラフ雑誌や本が堆く積み上げられ、蒲団を敷いてあるので足の踏み場所もない。東側に水場があり、暗室代りに使っている押入れの扉や、西側の壁など至る所に健次の撮った写真のパネルが掛けられている。そして、南に大きく開いた窓から、目と鼻のすぐ先に、高架の上を絶えず通過する電車が見える。

——ああ、どうしてあんなに気味の悪い赤い色に染まっているんだろう。血を流し続ける空なんて、おぞましくて、ぞつとする。

珠子は窓枠に頬杖をついて高架の上の空を見上げる。

瘦せた薄い背中は珠子のものでもある。少女らしさがまだ消えず、形のよい腰にだけ女があった。視界を斜めに切って、どこまでも電線が続いている。その上の空が製鋼所の熔鉱炉の炎にそまって赤く燃えている。十時も過ぎ、あたりはすっかり暗いのに、炎が空に映って、その照り返しが鉄柱や道路や高架下の家やアパートや珠子が見ている景物を赤いフィルターで透かしたようにいつまでも赤く染めている。

女が一人順々に白い街灯が連なる薄暗い路上を小一時間ほど行ったり来たりしていた。駅から離れた市場の裏側の道はときたま銭湯へ行く人が通るくらいだった。女は道に大きく開いたアパートの二階の窓にちらちら裸の男女の影が差すのが気になっていたが、それも仕方がなかった。ようやく一人の男がぶらぶらと歩いてきた。

「ちよつと御主人」

女は意を決して男に声を掛けた。男は酒臭い息をして女の顔をまじまじとのぞき込んだ。女は男を見て少し安堵した。男は三十才前後の労働者のようだった。

「御主人、結婚しているわね？」

女の唐突な問に男は言葉に窮した。女は男の戸惑った様子を見て、納得顔に、

「じゃあ、この服着れないかしら」

と、紙袋の中から縞紋様のワンピースを取り出して、男の前に広げた。

「私より大きい人なの？」

「まあな」

「じゃあ大丈夫だわ。きつと似合うわ」

女は一方的に似合うものと決めてかかる。男はそんな女の厚かましさに不機嫌になった。

「これをどうしろというんだ？」

「買ってほしいの。いくらでもいいから。実は私この二三日病気で仕事に行っていないの。だからお金が一銭もないの。お願いだから、助けてと思って、いくらでもいい



いから買ってほしいの。お願い」

女は男に手を合わさんばかりにして頭を下げる。女は小柄で丸顔だった。茶色に染めた髪がまだらになっている。

「それは可哀そうだな」

男はそういうながらも女の顔をさぐるように見つめる

「けど、そんな服を買っても、誰も着ないからな」

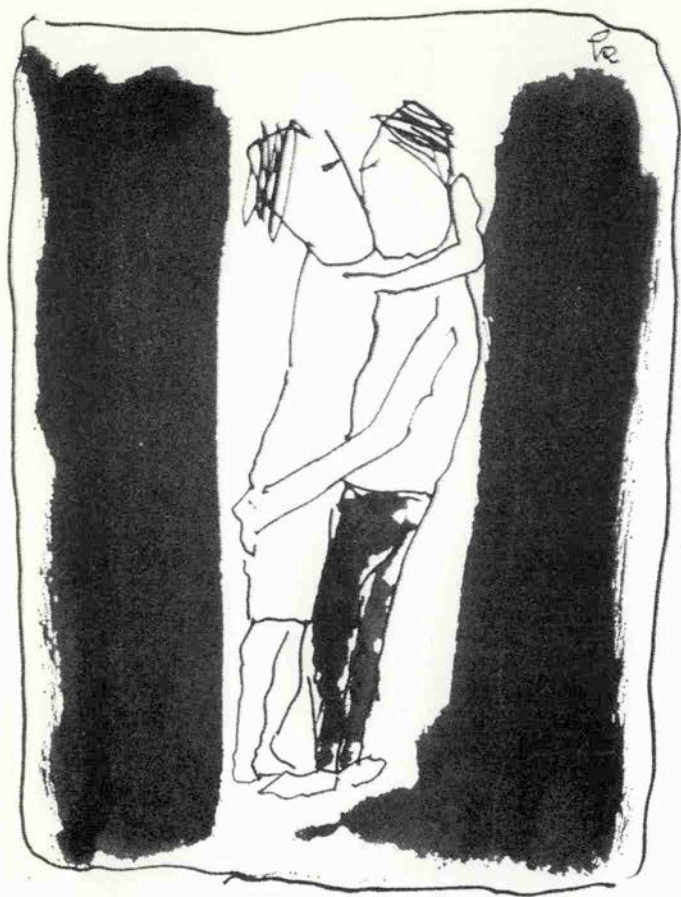
「結婚しているんでしょ？ そしたら買って帰ってあげたら奥さんよろこぶわよ」

男はにやつと嗤った。

「いくらで売るつもりなんだ？」

「いくらでもいいの。御主人が言う金額でお願いしますわ」

「でもなあ、人の着たものなんか、誰も着ないからなあ」



「お願い。助けるつもりで」

「五百円や千円で買ってあげても生活費の足しにはならないだろう？」

「そんなことはないわ。この一日二日が凌げたら、働けるから、何とかやっていける」

女は服の入った紙袋をどうかして男に手渡そうとする男はそんな女の顔を嘗めるようにのぞき込んで嗤っている。

「困っているんなら千円くらいあげてもいいけど。そんなもんもらっても仕方がない」

男は二三歩あるきながら繰り返す。女は男と一緒に歩きながら引き留めようとする。

「それじゃ、御主人。お酒呑むんでしょ。これまだ使ったことのないウキスキーグラスだけど、これも付けます

から、お願い、受け取ってちょうだい」

「あなたがその気ならもっとあげられるんだけどなあ」

また同じ電柱の下にもどって男が冗談めかしに言う。

女は探るように男の顔を見る。

「あなたの身体を貸せば五千円くらいあげよう」

男の赤い顔が淫らに崩れる。

「結構だわ。だから、これを買ってもらおうと思って」

「決裂だなあ」

と男は嗤いながら歩きはじめる。女は男の腕をとって遮る。

「私をからかっているんじゃないでしょうね」

「そうじゃない。そんなものを買えという方が無茶だ。」

百円でもいらんわ。だから代りにもっと沢山あげられることを言ったまでだ」

「でも笑っている。本気じゃないんでしょう？」

「素面だったら、こんな話に乗るかい」

男はすぐ側の奥まった市場の裏口の暗闇をのぞく。

「あの二人、何をしているのかしらね？」

珠子に手招きされて、健次は蒲団の上を一回転して窓辺に寄った。

「さっきから、服をひろげたり、コップを出したり。」

女がそれを男に押しつけようとしても、男は受け取るまいとするし。

夫婦喧嘩じゃないのか？ ぼくは御免だぜ。いつだったか、女房にバットで撲られて口を血だらけにして家から転がり出てきた男がいたので、助けて家に入れようとしたら、女房や子供や、はてはその男からも邪魔者にされて困ったことがあったんだ。

街灯の下で二人、なんて、あなたの好みよね。それも若い男女じゃなくて、人世に疲れた平凡な中年の男女。

あんなのが被写体になるかよ。事件でもあればともかく。

どんな事件があればいいの？ 男が女を摸るとか？

それとも、女が摸るとか？

「そんなことじゃ事件にならない。」

「それでは、男が女を刺すとかは？ 刺す瞬間を撮ればいいじゃないの。ほれ、このグラフの写真のように。」

「この写真のようにか？ 人が人を殺す瞬間をぼくが撮ればいいのか？」

「あなたがそう言ったわ。」

「ぼくはそんなことは言わない。ぼくは報道写真がすべてに優先するなんて絶対に思わないよ。」

「見てよ。やっぱりあの二人、変だわ。あんな所に隠れて何をしているのかしら？」

「市場の裏口だろう？ 泥棒じゃないのか？」

街灯の下にいた男と女は家と家の間の狭い奥まった所に入り込んで、身体を寄せ合うようにして、じっと立っている。アパートの二階の窓から二人の様子がよく見えた。

「泥棒とはちがうわ。それにしても何かしら？ あつ、いやだわ。」

と、珠子がすっとんきような声をあげた。それを健次が制した。

「よし、撮ってやる。」

健次は素早く立ち上がって蛍光灯を消し、押入れからメタリックケースを持ち出した。いつも自慢にしている6×6一眼レフのライカに高感度フィルムを入れて、フアインダーをのぞく。高架の上を電車が通るたびに、路上が明るくなる。健次はそこに浮かび上がった二人の影に向って何度も何度もシャッターを切った。

珠子は最初のうちは面白がって見ていたが、すぐに飽いて、窓辺に長々と寝そべった。窓の扉の横の空はまだ赤く染まっていた。

(第二話完)

*Orthodontist*



播磨矯正歯科

神戸・元町 ☎391-5288

**fresh!**

フレッシュな製品をつくりお届けするのが私達の役目です



取扱品目

牛乳 ソフトミックス  
生クリーム コーヒー用クリーム  
ケーキ用クリーム 各種アイスクリーム

株式会社

**六甲牧場**

神戸市灘区篠原南町6丁目1-25 ☎神戸078(801)6000(代表)



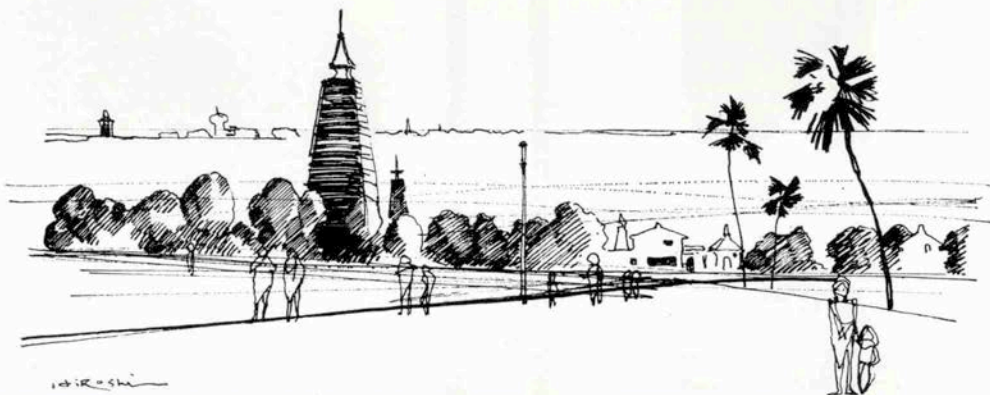
連載小説

< 5 >

# シール・ブラウンの神々

田磨 新

絵・松本 宏



(IX)

九月十三日 金曜日 晴のち台風で大雨

きよう、パパがインド旅行のパスポートを受取った。パパにとっても、わが家で初めての海外旅行だ。ママは、そのことをあまりよく思っていない。インド旅行を決心したパパとロゲンカがたえないのも、そのためです。

海外旅行が、好きなのに列車や船や飛行機で行けないことは、チャプリンの『ニューヨークの王様』をみて知りましたが、いちいち国の許可がいるのですね。ポクだって、イタリアのランボルギーニ・カウンタックLP四〇〇とか、西ドイツのボルシェ九三〇ターボを本場で見たいと思う。しかし、菊の紋章のパスポートをみて、予防注射だの面倒な手続きのいるのを知り、がっかりした。

きようは、その上ポクの学校での出来事がからみ、パパとママは、たちまち大ゲンカ。それは給食のときに起こったのです。

ポクは給食当番のケン坊とスープ鍋を両側からさげ、一階から三階の教室まで運び入れた。白いマスクをつけ、帽子をかぶり、上っぱりを着て。スープ鍋は重いから、一階ごとに休み、左右の腕を交代

しながら。つまり、一階から三階まで六十の階段を二度往復することになるのです。

配膳掛の女の子の並べたアルマイト皿にスプーを入れようとしたとき、掛の純子が、スプーのなかに髪の毛をみつけたことから、事件がひろがるのです。純子は、スカートでもめくられたときのように大声で、髪の毛のことを叫び、ボクとケン坊をまじまじとみつめるのですから、たまりません。なるほどクリーム色のうすい幕をはったスプーの上に一筋の髪をボクもみつけた。しかし、指でつまめば取れる毛を、大事件ながらにみんなに知らせる必要もないのにと、ボクは冷静にかまえていたのです。「幸治くんは、いつも頭をかいて、フケを落としたり、肩に髪をつけているわ」

机に坐っていた連中までが、スプー鍋をのぞきに集まってきました。珍しくもないのに。

「これが、ボクの毛だとはいえないよ」

給食室から、すでに入っていたかも知れない。ケン坊のかも分らない。いや、わめきちらしている純子のかも知れないぞ。コマシヤルみたいに、頭をふっては、長い髪をみせびらかすくせに。

「きたなくて、もう飲めないわ」

「そうよ、幸治くんのものよ。私もそう思う」

女たちとボクは向いあう。馬鹿ばかりしてつきあいきれないよ。女たちは、さわぎをひろめることで楽しみを分かちあっている。

ボクは、ふと家でガミガミいうママを想い出す。女は年に関係なく、こんなちっぽけなことでも大げさに、どうしてさわぎたてるのだろうか。ボクは、つくづく女に生まれなくてよかったとさえ思うのだ。

毛は、すぐにも指でつまんで拾いあげられる。ボクがそれをやれば、ボクの毛の証明みたいだ。スプー鍋を交代でのぞきこむみんなに押され、ボクは黒板の方へ退却したかたちになる。ボクは、さわがしい教室を無視する。ふと、窓辺に近づき中庭でもみたいと思う。そう思

うと、なんとなく桜の木の下のコスモスの花が、見下ろされる位置に立っていた。薄い花びらは、風にゆれていく。それが、はるか遠い距離にみえる。そのとき、窓辺の金魚鉢のなかの金魚の影が、目にふれる。水にぬれた赤い尾ひれも風にゆれている。

ボクは、いまこの日記をつけながら、そのときのことをくわしく思い出したいのだが。コスモスも金魚もやさしくゆれていた、ボクに関係なく。しかも、五匹の金魚は水面に口をそろえ、エラでゆっくり呼吸をしている。昼ごろは、給食のパンがもらえることを知っているのだ。純子たちが、その金魚を可愛がっていることも頭に浮かんでくる。ボクは、とっさに金魚鉢に手を入れる。おどろいた金魚が、水槽の底へもぐるのをつかんだ。誰もそのことに気づいていないらしい。

ボクは、そのままスプー鍋に歩みよる。さわぎが、教室全体にひろがっているのに、ボクは、自分の鼓動しか聞こえなかった。

「まだ、ボクの髪だとかいのかい」

ボクはスプー鍋の上に金魚を握った手をひろげた。純子たちが、きやあと後にしりぞく。

「さあ、はっきりしようじゃないか」

手のなかで金魚は、にぶくはね、苦しそう。ぬるぬるしたうろこが、とれそうだ。

「やめて」

いつせいに女の声がわきおこる。早く先生を呼ぶべきだという声もあがり、倍のさわがしきだ。

「幸治、やっちなえ」

おもしろ半分という男の声もある。ボクは、金魚がはねるたびに指をひらいたり、すぼめたりした。そのたびに金魚は、ねばりつくボクの手から逃がれたがっている。ボクは、なぜか、女の子を押えつけている気分になる。

スプーが、ジャガイモやニンジンの浮きでた部々から黄色っぽく変色している。その上の一本の毛が、ボクには回虫にみえてきた。



もう、このスープはダメになったと思う。いまさら、金魚も水槽に戻してやることもできない。そのとき、ボクの手を押えつける力があつた。金魚は、きらつと軀をそらせ空間を泳いだ。とり押えられたボクの指は、ぬるぬるにしめつていた。

担任の鈴木先生は産休です。そのため代用の山田先生が教室に駆け戻ってきた。スープ鍋のまわりから、みんながとびちり席へ帰ってゆく。ボクは、金魚がはねるたびにスープにまみれ、やがて動かなくなるのを観察していた。金魚の目に、暖かいスープの幕がはってゆく。

「なぜ、そんなことをしたのか」

山田先生の大声が耳の近くで、くりかえされる。ボクがひと言も口をきかないものだから、ボクの耳をひっぱって金魚鉢のところまで歩く。痛くて顔をしかめても絶対に答えない。そのため午後、ママが学校へ呼びだし、給食事件が全校にひろがった。

家へ帰り夕食のときも、その話題になる。

パパ「そのスープは、どうだったんだ」

ボク「重いのに、また給食室へ運んだんだよ。ブタの餌行きさ」

パパ「もつたいないことをするんだね」

ママ「幸治が悪いことをしたとは、思わないの。金魚だけじゃないんですよ。女の子が泣いているのに、デラゲラ笑ってたそうですよ。親の顔がみたいと父兄たちの抗議がつづいたんですから」

パパはボクの肩をもつのか「もつと、他に原因があるよ」という。ボクは思わずにやりとしてしまう。「あんなのスープじゃない。粉っぽくて、まずいんだよ」ボクは、やつとここまで言う。ほんとは、あんなスープには、ヒギエルかヘビを投げ入れてやりたいと、ケン坊らと話したのだ。卒業までのある日、必ず実行しよう。

きょうの髪のはきは、ハブニングだ。たださわぎが大きくなったので、もっと大きくしてやれと思ったまで。この分では、次の計画は成功する。きょうのところは、

その前しよう戦だとキミに誓ってもいいよ。

日記くん。きょうは、たくさん書きこんだね。お互にウソはつきっこなしだよ。キミとボクだけの秘密を守るためにも。

# (X)

仏跡めぐりの十五人のパーティを乗せた観光バスは、パトナからナーランダへ。ラジギールからブツダガヤへ。さらにバラナシーまで四五〇キロを二日間であつとばす町を横切り、村を駆けぬけ、川を渡り野をひたすら突っ走る。街路樹のつくづく広い道路に羊や牛の群れが往きかう。運転手のラルーンサンは、ロボの荷車も国産車も警笛でけしらい追い越してゆく。

「騒音のサービスマで、ついちゃうのかい」

彼はいっこうに気にしないらしい。ある幹線道路きわには、レンガを積みあげた井戸のような囲いが点々とつづく。肥壺じゃないかと、われわれは勝手に喋りあう。田んぼでは、赤いサリや腰巻きの百姓たちが田植をしている。畦道で、のんびりと野糞をしている男もみられるが、このレンガの上にはまたがっているのを見かけない。肥壺じゃない。添乗員の野中が笑いながら応えてくれる。「街路樹の幼木を牛に喰われないように囲っているんですよ。それにスコールの水を周りに溜めたインドの生活の知恵なんです」

私たちは、安心して窓の外の風景をむさぼりつつける。村に入る。樹影には、必ず神聖な牛と昼寝の男たちに出くわす。鍛冶屋がある。ミシンを店先に出して、サリやシャツを縫う仕立て屋がある。ねんど造りの平家の土間から、子供たちがバスにふりかえる。ナマスティ。樹の下で男が立膝で向いあい、髭を剃る青空床屋もみられる。

私は、ナーランダ近くのレストランで昼食のあと、その出張床屋につかまった。白の上下服を着た若者は、私

の不精髭に手をさしだしてくる。彼らが、シャボンも使わずに髭を剃りあげるのを珍しく思っていたから、興味はあったが、結局やめてしまう。焦茶色の指、そのうすく色あせたものもいろじみた掌で頬をなであげられるのに抵抗があった。

「髭剃りは、一種の名人芸ですよ。耳そうじも実に気持ちよくやってくれますのに」

野中が誘ってくれるが、私は哲学的に苦笑をかえすばかりだ。

僧侶たちは、ナールンダの寺院跡や霊鷲山で、さらには世尊が悟りをひらいたブッダガヤ大塔や初転法輪の地サルナートの鹿野苑で読経をくりかえした。

黄色い袈裟を軀にまとい、線香を手向け「般若心経」を誦える。ナールンダでの読経は、私が生まれてこの方、

どこで聴いたお経よりも印象強い。荘大な原野。緑の地平線まで眺望がきくレンガ造りの遺跡屋上に八名の比丘が、クリクリ頭を並べた。ふりそそぐ太陽は、みる間に汗の幕をはる。うつすらと立ちのぼる線香の煙。読経は、ひとときわ力強い合唱になって野の仏や神々の昼寝を、しばし覚めさせたであろう。私の臉に、ふと亡くなった両親の顔がうかんだ。汗が、とぎれる。暑さが遠のく。臭いが消える。母の霊が身近に寄りそってくる。私は思わず、あたりにふりかえる。この白昼夢の光景が、そのまま夢につながり、その夜ブッダガヤの小さな村へとつづく。

宿泊したロッジは、自家発電のため十一時には消澄になる。高い天井で回っていた扇風機もことりとも動かない。暑さがこもり寝苦しい。中庭の芝生に出る。中天の



14:Roshi

月は、数時間前より瘦せているが、十五夜前夜。稲妻が西の空で閃光している。雷鳴は聞えない。虫のすだく音も、どこことなく日本に似ている。犬の遠鳴きもしているではないか。ふと、ドラムの音が耳を掠める。近くの村かららしい。村まつりだろうか。野中が、ロッジの人の案内で村へ出かけてみようということになる。

私は上半身はだか。半パンツにスリッパのままついてゆく。ロッジ前の広場から土堀にかけた梯子をまたぐ。そこはアラビアン・ナイトが冥土の世界か。これは、いつか見た夢の国。両側から土壁が迫り、軒が寄りあつた狭い路地。ふたり並んでは歩けない。その上、路の真中が浅く溝のようにえぐられ、雨が降れば雨水が流れるのだらう。いまは白く乾き、月のひかりが落ちてゐる。家の中から流れてた下水が、路地に染みでて黒く湿っている。昼間ならハエや蚊が、とびかうだらう。土蛙もいるかも知れない。しかし、いまは臭いも暑さも月のひかりに沈んでいる。

私は、いつの間にか少年のような足どりになつてゐる。大地を踏む感覚は軽く、もう路のくぼみも気にならない。建物の暗いたずまいにそつた路は、曲りくねつて、どこまでもつづきそう。月をみあげれば、列と同じ方向に前へすすむ。立ちどまれば、月も止まる。

ここはインド。緯度も風土もちがうのに。いつか見た夢をなぞる気分だ。その想い出とも夢とも区別のつかない先に、また夢がつづく。

寝静まつた家からは、やさしい鉦が聴えてくる。納屋から牛の眼が闇にうかぶ。太鼓の音が、いよいよ近づいてくる。もう後へはひけない。家並みのとぎれた空地に大八車や床几がある。その上に黒い嵩。横向きに並んだ子供や百姓たちが寝ている。

「男ばかりで、女は家の中で寝るのかね」

夢のなかで誰かの声をする。ようやく広場の丘にたどりつく。ドラムの音は止まっていた。木をえぐつた太鼓を手まねで借りると、でたらめに打つてみる。夢のつづ

きでドラムが鳴る。

ババ、バックシージ（旦那、おめぐみを）いざりの老人が、観光バス近くで待ちかまえている。一行の前後を先回りしてまわりつく。バスの中から、子供たちにデザートにでた親指ほどのバナナやこぶしほどのリンゴを手渡してやる。子供たちは、決してその場で食べない。すばやくスカートやポケットにしまいこむ。持っている者からめぐみを、インド人の生活信条なのだ。

私は腕時計をみる。午後三時か。時差が三時間半だから、日本の小学校では間もなく給食が始まる。幸治の秘密日記を出発前に見てしまった。私が、何げなく地球儀を本箱の上から降ろしたとき、そのノートが落ちたのだ。学校給食の不満は、子供の口から聞いていた。料理がまずいとお膳をひっくりかえす亭主は、もう日本には居ないだらうが、幸治らが、ヒキガエルやヘビを使う方法を発見して、私はびっくりした。しかし、私は幸治にも、妻の杉野にもその秘密を明さなかつた。

『嫉は女の仕事だ。私は、もつと大きいことを考えてやりたいんだ』『それなら、もつと父親らしくしてください。今回の責任も大きなことですからね。先生に呼びだされても、絶対学校へはゆきませんから』妻の声が遠のく。給食そのものが、本来の食べる楽しさ、おいしさからかけ離れ、大量生産の飼料化に組みこまれてゐる。とすれば、たんに子供たちの口のおごりや好き嫌いだけではない。

バスに群がる不可触民の子供たちをみると、貧しい神の子が余りにも多いのにおどろく。

英国のJ・B・S社のトラベルマップにもみあたらない小さな町でランチをひろげる。バスを降りて樹影で立小便を探している間に、どこからともなく人々が集まつてきた。僧侶のひとりや、インスタントラーメンを子供たちに食べさせようとしたが、人垣はくずれず、物珍しい眼が注がれるばかりだ。ここはクダラ。美しい地名だった。

（つづく）



明日のKOBEを創る 130人のリーダーが情熱をこめて語る

FASHION OF KOBE

# 神戸ファッション都市論

自己主張のある余暇とファッション文化  
神戸のモダンライフの流れを探る  
ファッション都市は日常生活の集積から  
スポーツライフがファッションをリードする  
ファッション文化に不可欠な創造性  
住むのに最高の町、日本の外国、神戸  
神戸文化の背景は国際的モダニズム  
ファッション都市づくりの核にメッセ(見本市都市)の設置を  
ファッション都市はショッピングエリアから  
ファッション都市の舞台装置を創る神戸の家具  
洋菓子こそ神戸文化のバロメーター  
全国の80%を集散する神戸の真珠業界  
ファッションは生活のゆとりのなから生まれる  
トータルファッションのなかの神戸シューズ  
百年の伝統と世界的技術を誇る神戸の洋服  
神戸の生活文化を培うデパートメントストア  
ファッションナブルな神戸の魅力をつくる北野町界限  
世界的な水準を誇る神戸の味覚文化  
長期ビジョンをもったファッション都市づくりを  
ファッション都市に必要な空港とホテルと見本市会場  
ファッション情報センターの設置が急務  
ファッション都市を創る人材を養成する  
豊かな文化が経済活動のエネルギーとなる  
既成市街地の整備と未来の海上都市の建設  
あすの神戸、国際情報文化都市の創造を目指して

お待ちいたしました  
市内各書店にて一斉発売

10月4日発売!

KOBE MOOKS No.1  
定価 1,200円  
(送料 350円)  
A4版 220頁

編集 / 月刊「神戸っ子」

発行 / コミュニティサービス株式会社

(〒650)神戸市生田区東町113-1大神戸ビル7F TEL.078-331-2246





# ●ジャルダンフェスティバル

ジャルダニ号に乗って神戸の空を飛ぼう!



## ★抽選でチャーターセスナ機による空中デートを10組のペアにプレゼント!

期間/ 10月5日(木)~25日(火)20日間

応募要項/ 期間中ジャルダン各店をご利用のお客様に、抽選券をお渡ししますので、住所・氏名をご記入のうえ、所定の箱にお入れ下さい。当選者は10月30日(日)ジャルダン各店頭にて発表いたします。

八尾空港より、ペアごとにチャーターされたセスナ機に乗って神戸の上空を約1時間お楽しみ下さい。

## ジャルダンニュース

- 新長田駅前のジョイプラザ大丸B1の「アイスクリーム&ホットドッグの店」がオープンしています。ヤングに大好評!
- 同じく地下鉄新長田駅コンコース内に10月10日珈琲肆「ジャルダン」がオープン。本格派にぴったりの珈琲専門店です。



TEA & COFFEE

ジャルダニ

楠 公 前 店	☎351-1149	中 山 手 店	☎331-6680
大 丸 店	☎321-5257	ジョイプラザ店	☎643-2951
サンこうべ店	☎351-6032	新 長 田 店	☎642-2993





# balcon antique series

〈54〉レコード

今崎 陽吉 さん

(ラジオ関西プロデューサー)

円形や六角形、電話を形どったり真っ白や真っ黒、また横尾忠則デザインによる二十二面体などと、ロック音楽のレコードジャケットは凝りに凝っている。「特にロックの場合、ミュージシャンの主張がジャケットにも表われていて、レコードが単に音だけを聞くというこれまでの概念からトータルな芸術品という感覚のものがたくさんあります。音からだけでなくジャケットを眺めながら楽しんでます」と話す今崎さんは、朝はロック音楽を聞きながらブラックコーヒーでお目覚めです。

センター街店にて  
カメラ / 米田定蔵



## バルコン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店  
TEL 391-1758 AM11:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店  
TEL 391-1210 AM10:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ センター街店  
TEL 391-1375 AM10:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ神戸亭  
三宮センタープラザB1 TEL 332-6361



# 神戸のうまいもとドリンクング

## ★日本料理

讃岐名代うどん **あこや亭**  
 舞合区塚原通7-5 ☎ 231-6300  
 トアロード店 ☎ 391-2538  
 兵庫駅前店 ☎ 575-5306

北海道郷土料理 **蝦夷**  
 生田区中山手通1-115東門筋東門会館ビル1階  
 ☎ 331-7770

和食 **くれない**  
 三宮生田新道浜側中央KCBビル2F  
 ☎ 331-0494

鍋も・おむすび **味噌**  
 生田区北長狭通1-20 ☎ 331-3848  
 三宮さんちタウン ☎ 391-5319

たこ焼 **ちばな**  
 三宮センター街(旧柳路) ☎ 331-0572

とうふ料理 **東家**  
 生田区北野町3-53 ☎ 221-1148

お茶漬・おむすび **ふる里**  
 生田区北長狭通2-1 ☎ 331-5535

かつばう **吉本**  
 生田区加納町3-95-1(ニュージャパン別館前)  
 ☎ 241-3450

御食事処 **鳥光**  
 須磨本店 ☎ 731-5855 センタープラザ店 ☎ 331-6948  
 さんプラザ店 ☎ 391-3696 三宮東門店 ☎ 331-4043

## ★西洋料理

レストラン **アポロン**  
 舞合区八幡通5-6 ☎ 251-3231

レストラン **鹿鹿 皮〈あらかわ〉**  
 生田区中山手2-9  
 ☎ 221-8547・231-3315

ピザ&スバゲティ **ガルの店**  
 舞合区琴緒町5-1-7 西山ビル1F ☎ 241-9025

ステーキハウス **グレル青山**  
 生田区中山手通2-112-2(トアロード)  
 ☎ 391-4858

レストラン **クィーンズコート**  
 生田区山本通2丁目31 ☎ 242-2469

ステーキ&  
 ドリンクス **神戸館**  
 生田区下山手通2-29-3 アマツビル1F  
 ☎ 321-2955

スカンディナヴィア料理  
 と世界の民族音楽の店 **ゴックスタッド**  
 生田区山本通3-18 回教寺院前 ☎ 242-0131

GALLERY &  
 STEAK HOUSE **SAN-MON3 門**  
 生田区中山手通2丁目98-99 ☎ 331-5817

Café et  
 Restaurant **アンドゥトワ**  
 生田神社西 伊藤ビル1F ☎ 391-8639

レストラン **スイスシャレー**  
 生田区北野町3-48 アニルマンション1F  
 ☎ 221-4343

レストラン **セントジョージ**  
 生田区北野町1-130 ☎ 242-1234

レストラン **男爵**  
 生田区中山手1-18  
 山手第一ビル1F ☎ 241-0778

メキシコ小料理亭 **ティファナ**  
 生田区中山手通1丁目4-12 パールコーポラスビル1F  
 ☎ 242-0043

Restaurant  
 & Lounge **ボナベチ**  
 生田区北野町3-49 BKプラザ1F  
 ☎ 222-5300

ピザ・パブ **ピザ・パテオ**  
 生田区元町通1-49(元町1番街)  
 ☎ 331-9378

フランス料理 **ビストロドゥリオン**  
 生田区山本通2-40-1 ☎ 221-2727

ピッツアハウス **ピノッキオ**  
 生田区中山手通2-101 ☎ 331-3545

ナイト  
 レストラン **火の鳥**  
 生田区中山手通1-27 ☎ 242-1330

ポリネシア料理  
 海賊焼 **フィッシャーマンズポート**  
 神戸港第4突堤ポートターミナル  
 ☎ 331-0301

レストラン **フック東店**  
 生田区栄町1-5-3 ☎ 321-3207

レストラン **ムーンライト**  
 三宮・生田新道 ☎ 331-9554

グリル・鉄板焼  
 月 ☎ 331-2506

レストラン **元町フルーツホール**  
 元町1番街 ☎ 331-1987

ステーキハウス **れんが亭**  
 生田区下山手通2-34 ☎ 331-7168

BARBECUE  
 & STEAK **六段**  
 生田区元町通3 ☎ 331-2108

居酒屋  
 フラメンコショー **ロス・ヒターノス**  
 生田区下山手通3丁目22  
 下山手セントラルハイブ  
 ☎ 391-5431

レストラン **フック神戸店**  
 生田区栄町2-24 ☎ 321-3453

炭焼ステーキ **凱旋門**  
 生田区下山手通2丁目6 新道ビル1F  
 ☎ 321-3378

ドイツレストラン **ハイデルベルク**  
 生田区山本通2丁目 ローズガーデン2F  
 ☎ 222-1424

ボロニア風  
 生パスタの店 **カプリオ**  
 神戸三宮さんプラザB1F  
 ☎ 391-5206

サバー&スとらん **津島**  
 生田区栄町通2-14 加地ビル3F  
 阪神元町駅西口南 ☎ 391-5700

★喫茶  
 ティー&スナック **エポック**  
 生田区元町通3(浜側) ☎ 331-3694

喫茶 **ガーデニア**  
 生田区東町113-1 大神ビル1F  
 ☎ 321-5114

宮水のコーヒー **にしむら珈琲店**  
 中山手店・生田区中山手通1-70  
 ☎ 221-1872・231-9524  
 センター街店・生田区三宮町2-35  
 ☎ 391-0669  
 北野店・山本通2-9 ☎ 242-2467  
 (会員制) 3F事務所 ☎ 242-1880

ピアノホール **バックステージ**  
 生田区三宮町1 サンプラザ10F サンロイヤル  
 ☎ 332-0230

珈琲 **モーツアルト**  
 生田区山本通2-98 グランドマンション1F  
 ☎ 241-3961

ファッションブル  
 ザーン **キングスコート**  
 ティーラウンジ **ペントハウス**  
 生田区山本通2-111 キングスコート内  
 ☎ 242-7090

珈琲 **ん**  
 生田区三宮町2丁目25(トアロード)  
 ☎ 391-1589

★club  
 c l u b **飛鳥**  
 生田区中山手通1-117 ☎ 331-7627

c l u b **小万**  
 生田区東門筋中島ビル3F  
 ☎ 391-0638・4386

c l u b **さち**  
 生田区中山手通2-75 ☎ 331-7120

クラブ **千**  
 生田区下山手通2-21 ☎ 391-1077

c l u b **なぎさ**  
 生田区北長狭通2-1 ☎ 331-8626

くらぶ **ぶーげん**  
 三宮生田新道浜側中央KCBビル5F  
 ☎ 331-8593

c l u b  
 B A R **Moon Light**  
 BAR ☎ 331-0886・391-2696  
 Club ☎ 331-0157

クラブ **るふらん**  
 生田区北長狭通1-53 ☎ 331-2854

★STAND & SNACK  
 PUB &  
 RESTAURANT **アップランド**  
 生田区加納町3-1-34 ☎ 241-8271

サロン **アルパトロス**  
 生田区中山手通1-24-7  
 大和ナイトプラザ2F ☎ 231-3300

DRINKING IS  
 AN ART OF LIFE **ウッドハウス**  
 生田区下山手通1-32 ☎ 241-7320

C A F E  
 WHISKY **音楽の家、ETエトワト**  
 生田区三宮町3 三宮センター街西入口  
 スカイトーアビル3F ☎ 332-1755

純会員制 **エドワーズ倶楽部**  
 生田区北長狭通1-28  
 ホワイトローズビル5・6F 生田新道  
 ☎ 391-3300

S N A C K **L M**  
 生田区北長狭通1-25 生田新道ビルB1  
 ☎ 321-3070

ナイトイン **おしゃれ貴族**  
 生田区中山手通1-24-7  
 大和ナイトプラザB1 ☎ 242-1925

スナック **蘭の花**  
 生田区中山手通2丁目30-1  
 東門ダイワナイトプラザ5F ☎ 391-4455

スタンド **かてな**  
 生田区中山手通1-90 英健ビル1F  
 ☎ 331-1316

本店洋酒の店 **キャンテイ**  
 生田区北長狭通2-3  
 ☎ 391-3060・391-3010

北店スープとパンの店  
 生田区下山手通3-8-9  
 ☎ 331-3661

スタンド **グラムール**  
 生田区山本ビル地階 ☎ 331-4637

スタンド **くる実**  
 生田区中山手通1-72 ☎ 331-6985

サロン **神戸時代**  
 生田区中山手通1-28  
 モンシャットウコトブキビル ☎ 242-3567

カクテルラウンジ **サヴオイ**  
 高架山側 テキの店北 ☎ 331-2615

スナック **聚利**  
 生田区下山手通2-8-6 ☎ 321-0260

スナック **山荘**  
 生田区北長狭通1-22 ☎ 391-5823

music spot **サントノーレ**  
 トアロード店 生田区下山手通2 トア・ロード  
 ☎ 391-3822

北野店 生田区中山手通1-24-7  
 ダイワナイトプラザ6F ☎ 221-3886

スナック **レオバルド**  
 生田区中山手通2丁目30-1  
 東門ダイワナイトプラザ6F ☎ 391-0992

DRINK  
 SNACK **スネカジリッ子**  
 生田区下山手通2 永見ビルB1  
 ☎ 391-8708

Wine and  
 something **珍地理屋**  
 生田区中山手通1-24-7  
 大和ナイトプラザ1F ☎ 242-0288

素舌洞 **でっさん**  
 生田区北長狭通1-258 ☎ 331-6778

スナック **ビジービー**  
 生田区中山手2 ☎ 391-4582

ワイン&ティー  
 レストラン **バランタイン**  
 生田区中山手通2-101 大洋ビル2F  
 ☎ 321-5677

居酒屋 **ボルドー**  
 生田新道浜側中央KCBビルB1  
 ☎ 331-3575

S T A N D **マシュケナダ**  
 生田区中山手通2-30-1 東門大和ナイトプラザ2F  
 ☎ 331-5587

サロン **パレ小姫**  
 生田区加納町4丁目神三ビル2F ☎ 332-1098

スナック **興志務楽亭**  
 生田区山本通2-60 パールライフB1  
 ☎ 242-1977

ティー&  
 カクテルラウンジ **ルカカルトン**  
 生田区北野町3-2-67 ☎ 241-4323

ウエスタンパブ **神戸ホンキートンク**  
 生田区加納町2-30  
 ☎ 241-2161

バーラー **サンデリカ**  
 生田区中山手通1-90  
 ☎ 392-1434-6

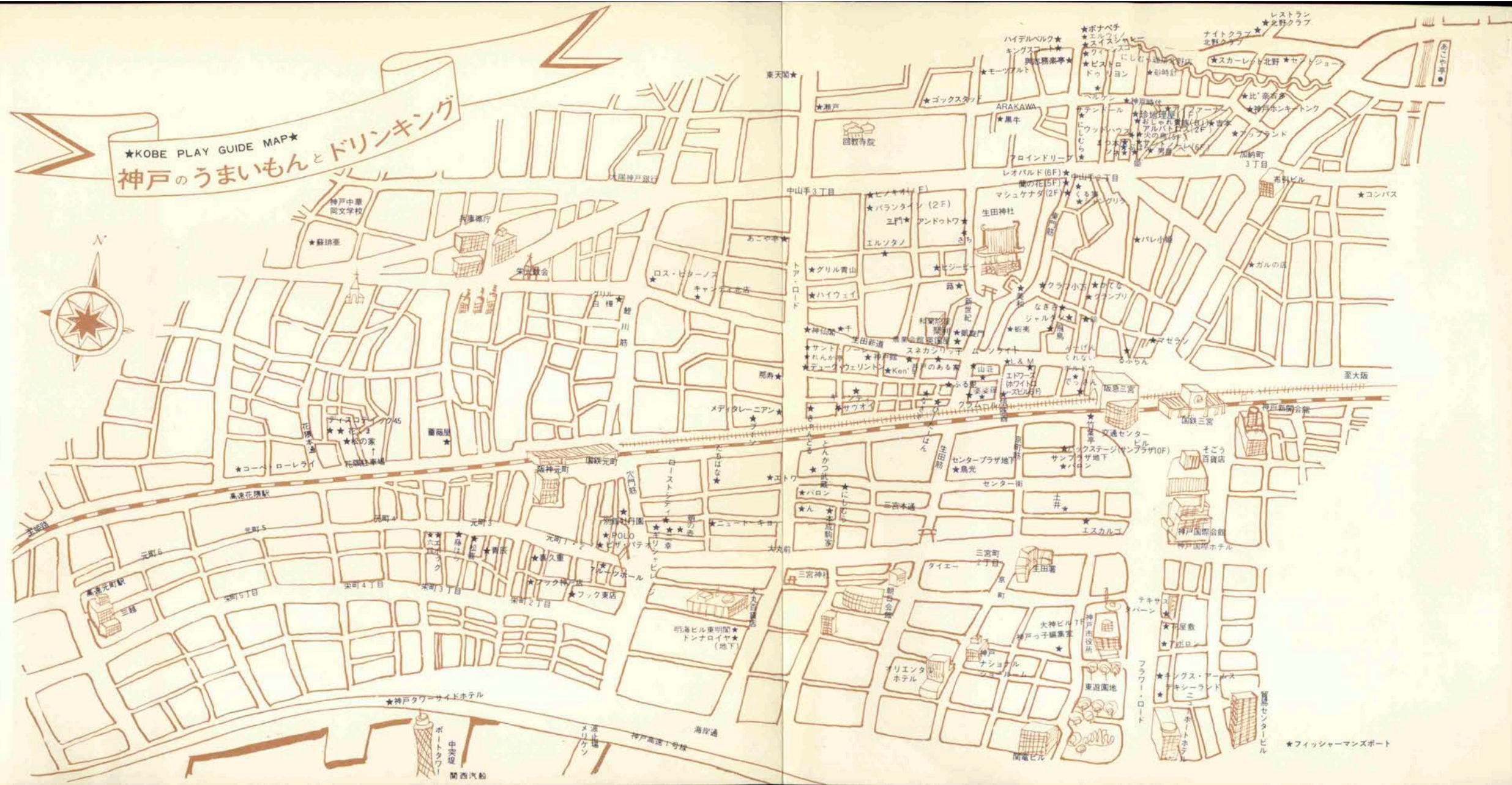
ラウンジレストラン **コンパス**  
 舞合区二宮町3-12 大西ビル2F ☎ 242-1236

S N A C K **シャングリラ**  
 生田区中山手通1 マリンビル1F ☎ 391-8941  
 グランプリ・中山手通1 ニュー友藤ビル2F  
 ☎ 391-4406



★KOBE PLAY GUIDE MAP★

神戸のうまいもん＆ドリンキング





# Fall Eating

小さな秋に見つけた味



王城千年の歴史が育てはぐくんできた京の味。  
京料理

**下鴨茶寮**

サンロイヤルプラザ神戸10F  
☎332-0509



ドイツ料理、ドイツワインにドイツ音楽が加わると…。  
ドイツレストラン

**Heidelberg**

山本通2丁目ローズガーデン2F  
☎222-1424



風がすすきの穂にそよぐ頃、松茸の香りとともにどうぞ  
てんぷら おすし

**宗 彌**

大丸前三宮神社東  
☎331-5772  
支店さんちか味ののれん街



阪急六甲の山側に小さいけれど素敵な店オープン。  
チャイニーズパブ

**GEN**

灘区篠原本町1丁目7-1メーブル六甲  
☎882-4520



若者の熱気でいっぱいのペーターは、空に浮かぶ気球のような、夢がふくらむメルヘンの世界を想わせる楽しさ

ピアレストラン

## ペーター

生田区北長狭通1 大山ビル地下 ☎332-1307



深まりゆく秋に、あなたも「ラベコンスタンタン」で水割りグラス片手に美女と楽しく語りながらのひとときを。

SNACK & NIGHT SPOT

## ラベコンスタンタン

生田区中山手通1 マリンビル地下  
☎332-1019 PM.7~AM.1 日曜休



神戸の夜、魅惑の夜、二人の愛の言葉を、恋する気持ちを  
「ロス・ティファーナ」が愛の調べでつづりましょう。

メキシコ料理の店

## TIJUANA

ティファーナ

生田区中山手通1 ☎242-0043 無休



落ちついた雰囲気と和気あいあいのムードで新しくオープンした「すすきの」。お気軽にお立ち寄り下さいませ。

SNACK

## すすきの

生田区下山手通2 ☎331-1813 日祝休

AUTUMN LEAVES  
Since you went away, the days grow long. And soon I'll hear old  
winter's song, but I miss you most of all, my darling, when  
Autumn Leaves start to fall.



# NIGHT IN KOBE



男には時々錨をおろす港が必要だ。  
心のなごむ音楽と何杯かの水割りと  
明るいおしゃべりとで迎えてくれる  
やさしい港が必要だ。そのリラック  
スのひとときで男には活力がよみが  
える。そしてまた明日の仕事が男を  
待っている。それが男の人生だ。



## LEOPARD

生田区中山手通2

東門ダイワナイトプラザ6F

☎391-0992・2125 第3日曜休

素敵なおレディ只今増員中

連絡お待ちしております



話題の北野町に新しく誕生。ランチタイムにも、ティー  
タイムにも、夜のお食事やドリンクにもお楽しみ下さい。

Restaurant & Lounge

## BON APPÉTIT

ボナベチ

生田区北野町3 BKプラザ1F ☎222-5300

第1 3火曜休 AM 11~PM 11



グラスの中の氷が溶ける音に、なぜか人恋しさを覚える  
秋の宵、あなたは「ジュテーム」で素敵なひとときを。



## Je t'aime

ジュテーム

生田区中山手通2 東洋ビル2F

☎391-3746 日 祝 休



ヨーロッパのコーヒーメーカー。——

# MICADO

JASCO TRADING CO., LTD.  
PRESIDENT  
O. NIEDERHAUSER  
& MR. H. HIRAMOTO



製造元



スイスエグロ社

輸入総代理店

株式会社 南ビル 貿易部

神戸市垂水区塩屋町字小谷267

TEL (752)0373・(751)2386

1kgの豆で130杯の美味しいプロコーヒーがとれるスイス生まれのミカド100

香り高いコーヒーは、デリケートな感覚を大切にこそ初めて生まれるものです。ミカド100は、豆の量と湯の温度を理想的に組み合わせ、豆ひき、調合、圧搾煮沸という順序を自動的に行ないます。あらびき、ほそびきなどもダイヤル調節だけで簡単にできます。

ホテルのコーヒーハウスに、また初めての方のコーヒー店経営に自信をもって、スイス生まれのミカド100をおすすめいたします。



シーサイドクラブ'77秋の海外旅行特別企画  
**ファッションラリー'78**と  
**晩秋のヨーロッパ**  
 11月17日(木)～11月26日(土)  
 10日間 ¥279,000円(大阪発)  
 ファッションラリー参加費20,000円含む  
 この機会にヨーロッパにおでかけください。



9月16日、大内順子さんとパリーを語る会より

秋は味覚のシーズン、シーサイドクラブの誇るフランス料理をお楽しみ下さい。メニューは細川董先生の絵で新しく完成しました。

## スパニッシュナイト

10月22日(土) ■6時30分より ■会費5,000円 ■出演 宮田隆ほか  
 アンダルシアの夜をシーサイドで

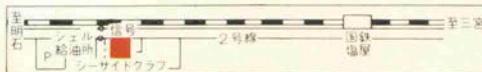
小宴会承ります。すてきなパーティを演出いたしますのでお申し付け下さい。



ヨットやモーターボートでもおこし頂ける  
 南仏風レストラン

**SEA SIDE CLUB**  
 PALACE  
**SHIOYA**

神戸市垂水区塩屋町字高  
 尾179の6 シーサイドパ  
 レス塩屋内  
 (国鉄塩屋駅西400m)  
 TEL753-1373(駐車場完備)  
 ☆営業時間  
 11:00AM～11:00PM  
 年中無休







PUB &  
RESTAURANT

PLANDS

生田区加納町3丁目

1-34

☎ 241-8271



JAZZ CLUB

SATIN DOLL

生田区中山手通1丁目57

☎ 242-0100

KOBE EATING & DRINKING GUIDE

スナック&喫茶

スナック

須磨区月見山本町2  
(山電月見山駅南隣)

☎ 734-7676



DRINKING IS AN ART OF LIFE 生田区中山手通1丁目32

WOODHOUSE

山内ビル

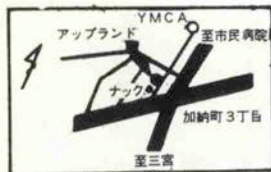
☎ 241-7320・7983



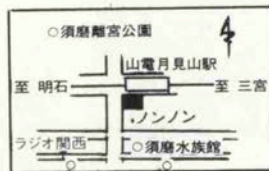


☆本格的な秋の訪れです。たとえば、静かな秋の夜に、ひとりでグラスを傾けるのもいいものです。ましてや、傍にステキな恋人がいるなら、何をかいわんやです。しかし、とはいっても、やはり、仲間と一緒に飲むことは、また別の楽しみ。さあ、ひとりの君も、お熱いおふたりさんも、アップランドへ来てみませんか。今夜も若い仲間が思い思いに秋の夜を楽しんでいますよ。毎週火曜日の夜2回(9:40PM、10:40PM)チャーリー、ショー、ジミーのトリオ、それ以外の日はチャーリーとショーのステキなライブが入ります。

☆ポークソーセージ¥900 シェパーズパイ¥1,000 スターキ&キドニイパイ¥1,000 フィッシュ&チップス¥750 コーニッシュパースティ¥800 プロス(ウェールズ風シチュー)¥800 ヘレスターキ¥2,800 J & B、G & G、OLD各¥500 ビール¥400 フィズ¥500  
5:00PM~3:00AM 日曜祭日6:00PM~3:00AM 無休



アップランド

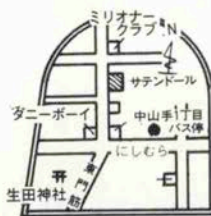


ノンノン

☆北に須磨離宮公園、南に須磨水族館、その真中にあるのがノンノン。1階は喫茶店。壁には全国各地のお土産物が所狭しと掛っています。これらすべてがお客さまのプレゼント。階段をトントンと上がるとスナックです。檜でつくった1枚板のカウンターはマスターの自慢で仲々立派なもの。竹をあしらったインテリアは日本調でこれまたユニークです。これらに加えて気さくであけっぴろげなマスターとママが何といてもノンノンの最大の魅力。だから若者からご老人まで客層はずい分と広く、近くにラジオ関西や女子大のあることから個性的な人や若い女性の姿がよく見かけられるのです。また、食べながら飲む人が多いので手づくりの料理もいろいろとあり、結構イケるのです。『Wワン』というのが実は名物で何かというビラフにカレーをかけたもの。とにかく楽しいお店なんです。ぜひ一度飲みに行きましょう。  
☆オールドキープ¥4,500 ミニチュア¥600 ビール、日本酒各¥500  
喫茶/8:30AM~10:00PM スナック/5:30PM~0:00AM 火曜日休み

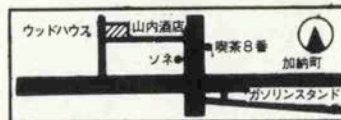
☆「若い人が多いので、店が明るく活気があるのが素敵ね」——と貴子さんと順子さんの仲のいいサテンドールの大ファン姉妹。ジャズライブの店として楽しんでいただいておりますサテンドールではパーティの予約を承っております。結婚披露宴やクラス会などにご利用下さい。(10~40名で一人3,500円より一軽食付・フリードリンク)ライブ

月~土 ハウストリオ(渡辺健蔵(b)安藤義則(p)岩本龍夫(ds)), 毎週水曜日はハウストリオオノミ伊藤(Vo)  
毎週日曜日は森宏トリオ、田代泰之トリオ、池田裕志トリオ、西山満トリオら関西のジャズメンの演奏。  
☆ビール¥400 水刺¥400 ビラフ¥400 サテンドール風スバゲッティ¥600 チキンバスケット¥700 エスカルゴ¥1,000  
6:00PM~4:00AM 無休



サテンドール

# KOBE EATING & DRINKING GUIDE



ウッドハウス

☆8月25日夜、神戸文化ホールは若い熱気につつまれていた。チャーリー・シングス・アゲイン! 2年前のあの興奮が今よみがえったのだ。ボーカル&ギター/チャーリー、リードギター/大村憲治、ベース/辻宗一郎、ドラムス/村上ポンタ秀一、オルガン/土居アキラの5人が次々と熱っぽく歌いかける。オリジナルナンバーのマリエル、ビッグシティー、ラブアゲインをはじめ、ロックとブルースの数々は会場につめかけた若者たちをスッカリ魅了していた。

そして秋の『ウッドハウス』。魂に歌いかけるチャーリーのソウルフルなボーカルをお楽しみ下さい。

☆ビール(小)¥400 水刺(OLD) ¥500 おつまみ¥200 スバゲッティ、ビラフ各500 キープG&G ¥6,000 レギュラースコッチ ¥7000  
平日5:00PM~4:30AM 日曜5:00PM~0:00AM 第1・第3月曜休み